

小学校

光村ポケット 国語

使ってみよう！
思考ツール

考えを整理したり、広げたりするときに役立つ思考ツール。情報を収集するときや構成を検討するときなど、国語の学習でも活用できる場面はたくさんあります。

さまざまな思考ツールの使い方をまとめた教科書の巻末折り込み資料「図を使って考えよう」を使って、授業をアップデートしてみませんか。

多様な学び方がいきる授業のアイデア 連載第2回
UDLの視点でつくる個別最適な学び



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中！
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



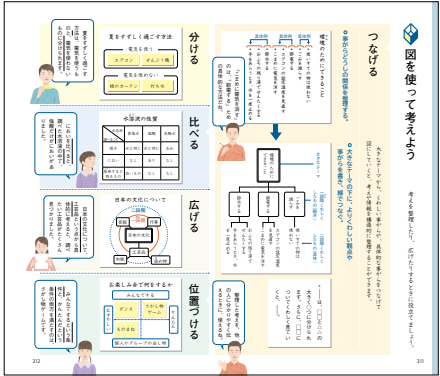
【教授用資料】 本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

思考ツールはいつ、どうやって使う？

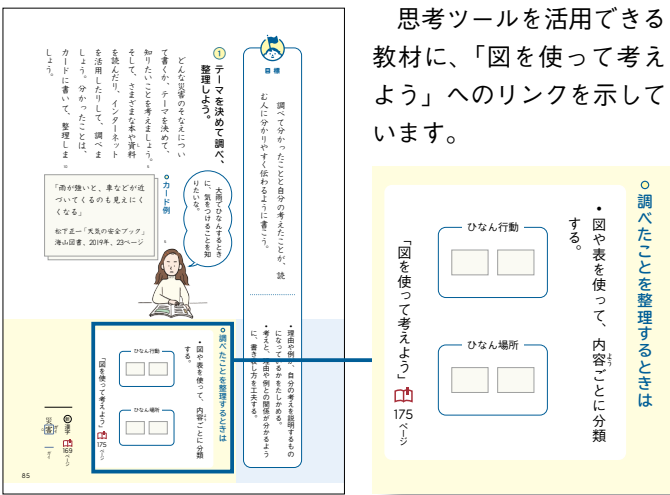
教科書では、学習に効果的な思考ツールを取り上げるとともに、その活用場面を示しています。ぜひ、授業づくりにお役立てください。

- いつでも
- 確認しよう
- まずは
- ここで使ってみよう
- さらに
- デジタル教科書搭載「思考ツール」で

巻末折り込み資料「図を使って考えよう」では、発達段階に合わせた思考ツールを具体的な使用例とともにまとめています。

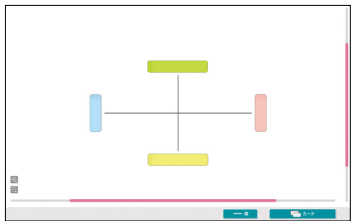


6年「図を使って考えよう」(311-312 ページ)



4年下「もしものときにそなえよう」(85 ページ)

もっと使いやすく



指導者用デジタル教科書(教材)、学習者用デジタル教科書+教材に、思考ツールを搭載。カードに書き込んだり、それを動かしたりすることができます。

思考ツールを自然に使えるように

有泉孝一郎(戸田市立戸田第二小学校教諭)

思考ツールは、思考をするうえでとても助けになるものです。しかし、使用経験が少ない子どもたちに「好きなツールを使って」と任せても、効果的なツールを選べず、使うことが目的化してしまいます。初めは、教師が板書などで思考ツールを使う姿を見せて、使い方や使う意味を理解できるようにしましょう。そのうえで、小さな単元で使うことに慣れさせます。例えば、「季節の言葉」で、マップを使って、その季節に関する言葉を広げるなどが考えられます。

目指したいのは、文房具のように、必要なときに最適な思考ツールを自然に使う姿です。そのためには、活動後に、使ってよかったことや改善点を共有し、思考ツールを使ったことによる思考の深まりを価値づけることが欠かせません。「何のために使うのか」を意識させながら、繰り返し触れさせていきましょう。

目的に応じて、使ってみよう

	順序	分ける	比べる	広げる	位置づける	つなげる
学習での活用方法	事柄の順序に沿って、話や文章を組み立てるときに活用できる。 文章の時間的な順序や事柄の順序を捉えるときは、情報を書き出した付箋やカード、挿絵を並べ替えることも有効である。	話し合いで出た意見や、文章を書くために収集した情報を分類するときを活用できる。 まとまりごとに異なる色で囲むと、視覚的に分かりやすくなる。まとまりを見いだすことが難しい場合は、まずは「自分たちでできること」と「先生に相談すること」のように、対となる関係を考えるとよい。	事実や意見、考えなどを、観点に沿って整理するときを活用できる。また、「読むこと」の学習では、段落や場面ごとの内容をまとめ、比較するときにも活用できる。 整理した情報は、同じところと違うところを色分けすると、比較しやすい。	題材について知っていることを書き出したり、発想を広げたりするときを活用できる。 関連している要素のつながりが分かりやすくなるように、似ているものを近くに書いたり、できるだけ短い言葉で書いたりするとよい。	複数の案についてグループで話し合って決めるときに活用できる。また、座標軸上の位置関係によって、同一軸の中での度合いを表すことができるため、事物の差異を把握しやすい。 収集した情報を付箋やカードに書き出すと、一度置いたものを動かしやすく、評価を見直すことも行いやすい。	大きなテーマから、より詳しい観点や具体的な事柄をつなげて構造的に整理するもので、説明文の論の展開を捉えるときに活用できる。また、ある課題に基づいて、原因を一つずつ分解して解決策を考えるときにも活用できる。
ここで使う	2年下「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(48 ページ)	4年下「もしものときにそなえよう」(84 ページ)	2年上「どうぶつ園のじゅうい」(123 ページ) 4年下「クラスみんなで決めるには」(40 ページ)	3年下「お気に入りの場所、教えます」(116 ページ) 4年下「言葉から連想を広げて」(94 ページ)	5年「よりよい学校生活のために」(136 ページ)	6年「時計の時間と心の時間」(56 ページ) 6年「おすすめパンフレットを作ろう」(188 ページ)

UDL の視点でつくる個別最適な学び

子どもたち一人一人の多様な学び方がいきる授業は、どのように実現できるのでしょうか。授業づくりのポイントを、3回にわたって、**桂聖先生**（共愛学園前橋国際大学准教授）に教えていただきます。第2回は、UDL の視点でつくる個別最適な学びについてです。

Q.1 UDL とは何ですか。

米国発「UDL（Universal Design for Learning：学びのユニバーサルデザイン）」とは、障害の有無にかかわらず、全ての学習者の学びを助けるための概念的フレームワークです。そのゴールは「学習者エージェンシー」（学習者による学びのかじ取り）であり、学習者が目的と内省力をもち、効果的にリソースを活用し、戦略的に行動できるようになることです。

学習者の学び方は多様です。例えば、書くことよりも話すことが得意な子ども、手書きよりもキーボードで打つことが得意な子どもなど、さまざまです。UDL の視点は、学び方を一つに固定するのではなく、学習者自身が、学習の「**ゴール**」を目標として、「**教材**」「**方法・手段**」をオプション（複数の選択肢）の中から選び、自らの学び方を「**評価**」しながら学習を進めていけるような単元をデザインする際に有効です。

日本発の授業UD（授業のユニバーサルデザイン）は「多様な学び方をいかして学級全体で共に学び合う指導の工夫」に強みをもつアプローチですが、UDL は「多様な学び方に合わせたオプションのデザイン」に強みがあります。学習者の実態や指導のねらいに合わせて、両者を適切に活用することが大事です。

Q.2 UDL の視点でつくる個別最適な学びの具体例を教えてください。

ここでは、「へんしんリーフレットを作ろう」（3年・「書くこと」という実践事例を紹介します。

これは、教科書3年下の複合単元「すがたをかえる大豆／食べ物のみつを教えます」の、「書くこと」教材をアレンジしたものです。大豆のように変身する身近なものを調べて、その秘密をリーフレットにして互いに紹介し合います。また、よりよいリーフレットを書くために、説明文「すがたをかえる大豆」を読み

直しながら説明の書き方を学ぶという、必然性のある協働的な学びも行いました。

UDL の視点では、次の点に配慮しました。

①単元の「ゴール」を明確にする

＊「へんしんリーフレット」を作る。

②「教材」のオプションの活用を図る

＊食材に限らず、興味のある原料や材料を選べる。

③「方法・手段」のオプションの活用を図る

＊図書資料だけでなく、インターネット調査や身近な人へのインタビューも選べる。

＊手書きだけでなく、ICT 端末での入力も選べる。

④学習者と「評価」の規準を共有する

＊「初め・中・終わり」に注目して読んだり書いたりする。

＊「事例の順序」「中心となる文とそれ以外の文の関係」などに注目して読んだり書いたりする。

単元では、一人一人の子どもが、表1のようなバリエーションに富む対象を選んで、探究学習を進めました。以前に実践した、食材に限定した単元よりも、一人一人が没頭して活動したり、互いの作品を進んで読み合ったりする姿が見られました。手書きできれいに書く子どもや、プレゼンテーションソフトを使ってビジュアル的に見やすく仕上げる子どももいました。

UDL の視点で個別最適な学びを設計することで、子どもたち一人一人が、学びを自己調整しながら自らの学びを進めていくことが期待できます。

種類	対象
食材	米 小麦 大麦 ぶどう くり 牛乳 とうもろこし トマト りんご 卵 カタクチイワシ
原料	木 ゴム ウコン 石 ダイヤモンド 土 炭素 石油
食材にも原料にもなるもの	牛 羊 豚

表1：子どもたちが選んだ対象



光村図書

教授用資料

発行日 2026年9月10日
発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話：03-3493-2111(代表)
イラスト 芦野公平

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

